

5. 本市における2020年からはじまるプログラミング教育の実施について
- (1) 早急に準備が必要とされるプログラミング教育の研究と準備内容について具体的に聞く。
 - (2) 人材不足の中、プログラミング教育の専門家やアドバイザーの確保、授業に協力する講師や大学生メンターの配置などについての考えを聞く。

【答弁】

5. 本市における2020年からはじまるプログラミング教育の実施についての(1)(2)について、順次お答えいたします。

まず、(1)についてでございますが、新学習指導要領では情報活用能力が、言語能力と同様に「学習の基盤となる資質・能力」と位置づけられました。また、将来、子どもたちがどのような進路を選択しどのような職業につくとしても、普遍的に求められる力として「プログラミング的思考」、いわゆる論理的思考力の重要性が示され、小学校においてプログラミング教育が必修化されることとなりました。

しかしながら、このプログラミング教育は、これまでにはない新しい教育内容となりますので、ICT機器等のハード面の整備に加えて、年間指導計画などカリキュラムの作成や各教員の指導力向上など、ソフト面の充実に向けた準備を進めていく必要がございます。

こうしたことから、本市教育委員会では、まず教員自身がプログラミングを体験する必要性があると考え、平成29年度より教員対象の研修を実施してまいりました。研修内容といたしましては、プログラミング教育の目的について理解を深めるとともに、小学校に導入済みのパソコンを活用し、無料で利用できる「スクラッチ」というソフトを用いて、正三角形や多角形をかくためのプログラミングなどに取組みました。さらに、平成30年度は、「ビスケット」や「プログル」の内容も盛り込み、研修を重ねてまいりました。

続いて、(2)についてでございますが、プログラミング教育の推進にあたっては、議員ご指摘のように、有識者より専門的な助言を頂くことや、大学、企業等との連携を進めていくことも重要だと認識しております。そこで、昨年度は、大学から有識者を招いて、プログラミング教育のねらいなどに関する研修を実施いたしました。今年度も、引き続き有識者を招いた研修を実施し、専門的なご助言をいただいたり、先生方に実際にプログラミングを体験していただいたりすることで、より具体的な授業のイメージをつかめるものと考えております。

また、企業との連携による先行的な取組みといたしまして、昨年度は学研プラスの協力を頂き、伏山台小学校で教職員研修を実施し、その後、研修を受講した教員によるプログラミングの研究授業も実施しました。

本市教育委員会といたしましては、教員の指導力向上を図るために、引き続き研修や研究授業等を実施し、プログラミング教育の充実に努めてまいります。また、大学生メンター等の支援人材の活用についても、今後、研究を進めて参ります。